



自然に優しく安全に厳しく、生命と緑の未来のために

## 2013年9月期第2四半期決算概要 及び通期業績見通し説明

2013年5月



日本農薬株式会社

<http://www.nichino.co.jp>

## 説明会次第



- I. 2013年9月期第2四半期実績について**
- II. 2013年9月期見通しについて**
- III. 研究開発の状況について**
- IV. 質疑応答**



---

# Ⅰ. 2013年9月第2四半期実績について

---

## 2013年9月期第2四半期決算実績

### 増収増益

(単位:百万円、%)

	13年9月期	12年9月期		
	第2四半期 実績	第2四半期 実績	前年 同期比	伸び率
売上高	28,028	24,551	3,476	14.2
農薬販売	22,580	20,426	2,153	10.5
化学品・医薬品他	1,655	1,953	△ 297	△ 15.3
ノウハウ技術料他	3,792	2,171	1,620	74.6
営業利益	6,093	3,421	2,672	78.1
経常利益	5,883	3,354	2,529	75.4
四半期純利益	3,912	1,986	1,926	97.0

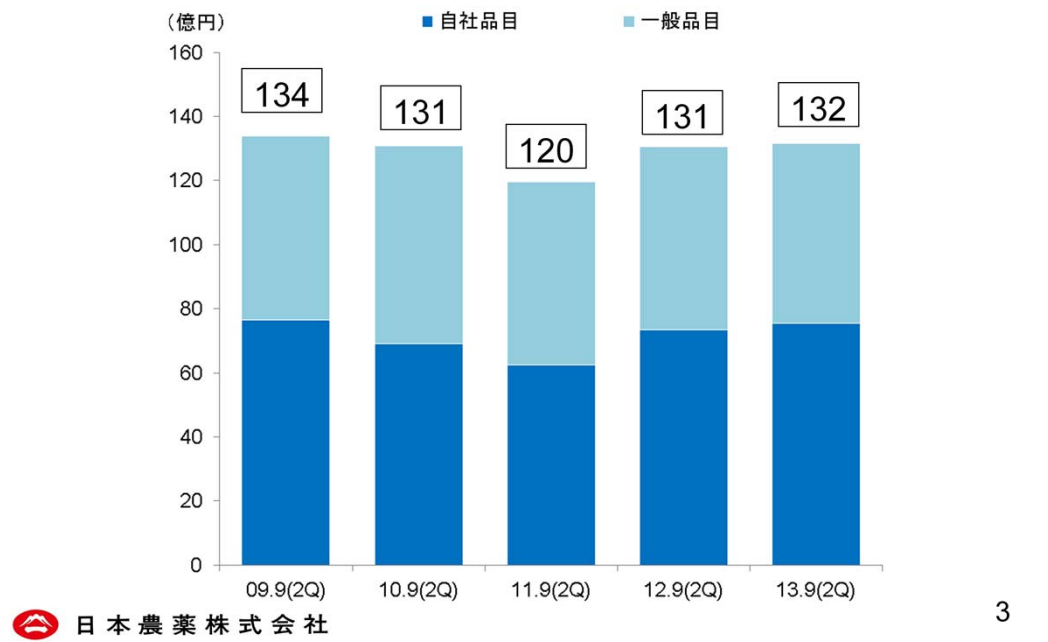
当第2四半期の売上高は280億28百万円と前年同期比34億76百万円、14.2%の増収であります。

利益面では増収効果に加えノウハウ技術料の増加や為替の円安基調での推移などもあり、営業利益は60億93百万円と、前年同期比26億72百万円、78.1%の増益であります。

経常利益は58億83百万円と、前年同期比25億29百万円、75.4%の増益、さらに四半期純利益は39億12百万円と前年同期比19億26百万円、97.0%の増益であります。

# 国内農薬販売

## 流通・販社の引き取り早期化などから微増



グラフは、第2四半期の国内農薬販売の売上高の推移を表したものです。

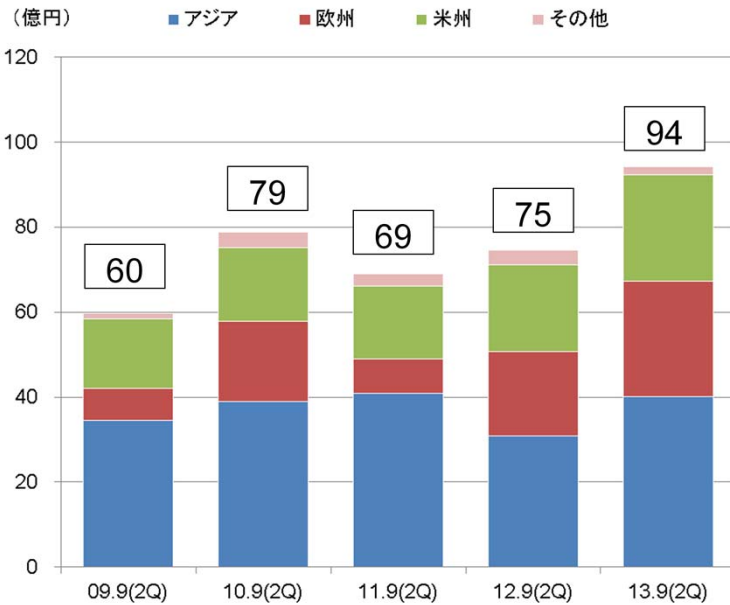
当第2四半期は園芸用殺虫剤「フェニックス」、水稲用殺菌剤「ブイゲット」などの主力自社開発品目の普及拡販に努めるとともに新製品5剤を上市し品目ポートフォリオの拡充を図りました。

農薬原体販売では園芸用殺虫剤「コテツ」などの主力剤の当用期に向けた販社への荷動きが活発となりました。

これらの結果、国内販売全体の売上高は、131億52百万円と前年同期比89百万円の増収であります。

# 海外農薬販売

## アジア、欧州、米州各地域とも売上高伸長



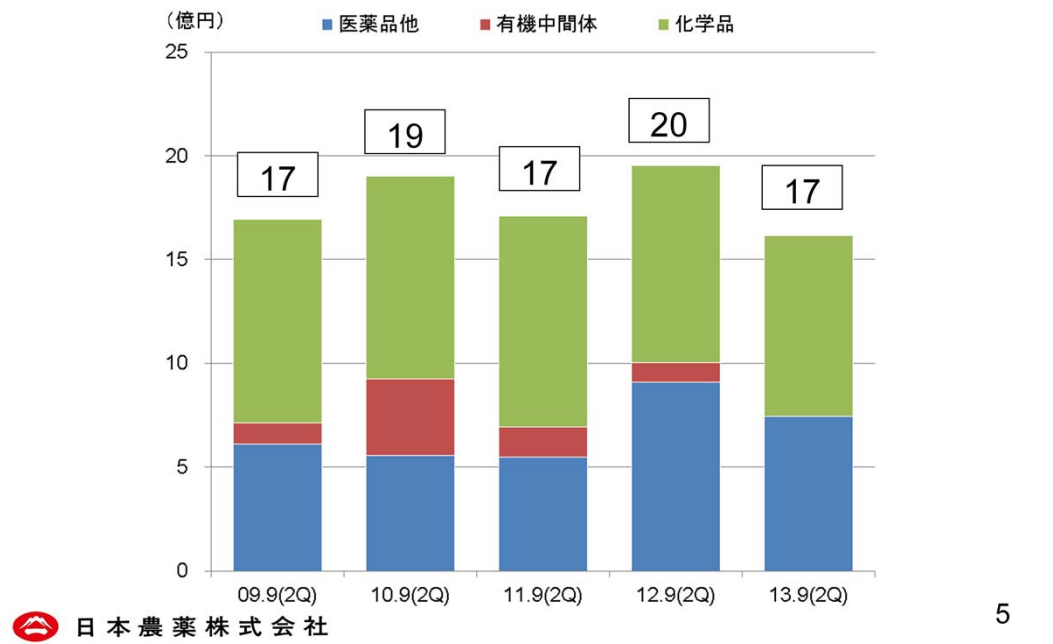
グラフは、第2四半期の海外農薬販売の売上高の推移を表したものです。

当第2四半期はアジア、欧州ならびに米州各地域とも売上高が伸長しました。

為替の円安基調での推移もあり、海外販売全体の売上高は94億27百万円と前年同期比20億64百万円の増収であります。

## 化学品・医薬品他

### 化学品事業の見直し(前年度)等が影響



グラフは、第2四半期の化学品・医薬品他の売上高の推移を表したものです。

化学品事業ではシロアリ薬剤が販路拡大から売上高が伸長しましたが、当社は前期に事業の「選択と集中」の観点から水処理薬剤販売事業を譲渡し、有機中間体事業を当面休止したため、売上高は16億55百万円と前年同期比2億97百万円の減収であります。



---

## II. 2013年9月期見通しについて

---



## 2013年9月期計画

### 増収増益

(単位:百万円、%)

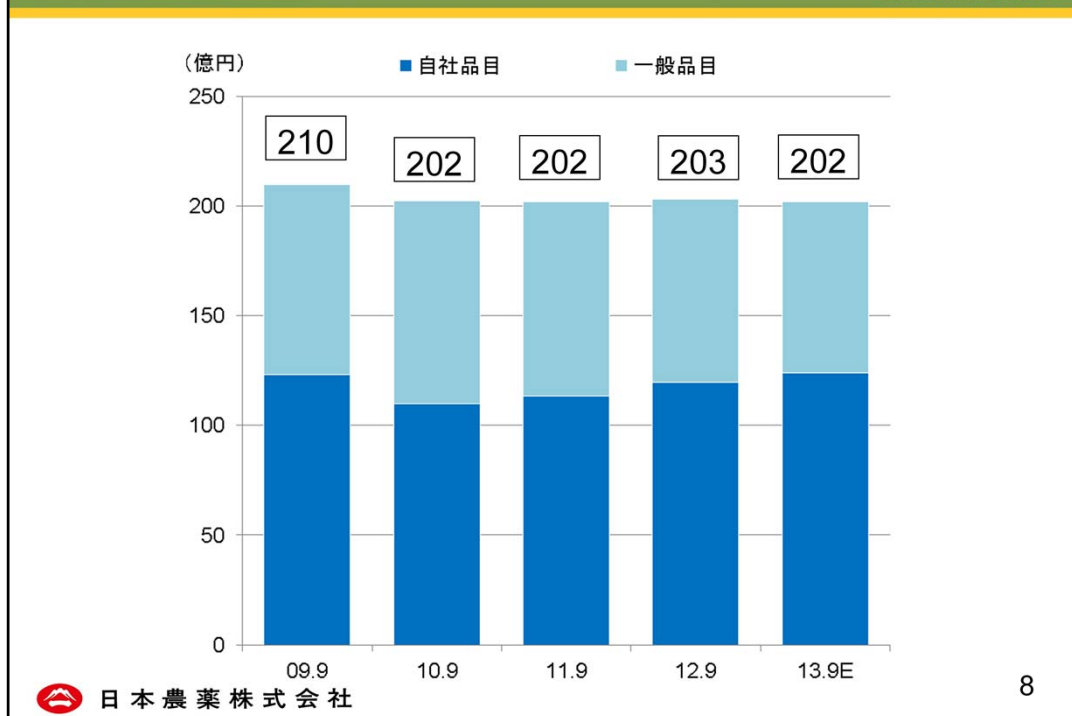
	13年9月期	12年9月期	前期比	伸び率
	計画	実績		
売上高	45,000	42,245	2,754	6.5
農薬販売	36,500	35,061	1,438	4.1
化学品・医薬品他	3,800	3,980	△ 180	△ 4.5
ノウハウ技術料他	4,700	3,204	1,496	46.7
営業利益	5,600	4,110	1,489	36.2
経常利益	5,400	3,899	1,500	38.5
当期純利益	3,500	2,285	1,214	53.2

売上高は、海外農薬販売の伸長とノウハウ技術料の増加を主要因に450億円と前期比27億54百万円、6.5%の増収の計画であります。

利益面では、研究開発費など販管費の増加が見込まれますが、営業利益は56億円と前期比14億89百万円、36.2%の増益の計画であります。

経常利益は54億円と前期比15億円、38.5%の増益、さらに当期純利益は35億円と前期比12億14百万円、53.2%の増益の計画であります。

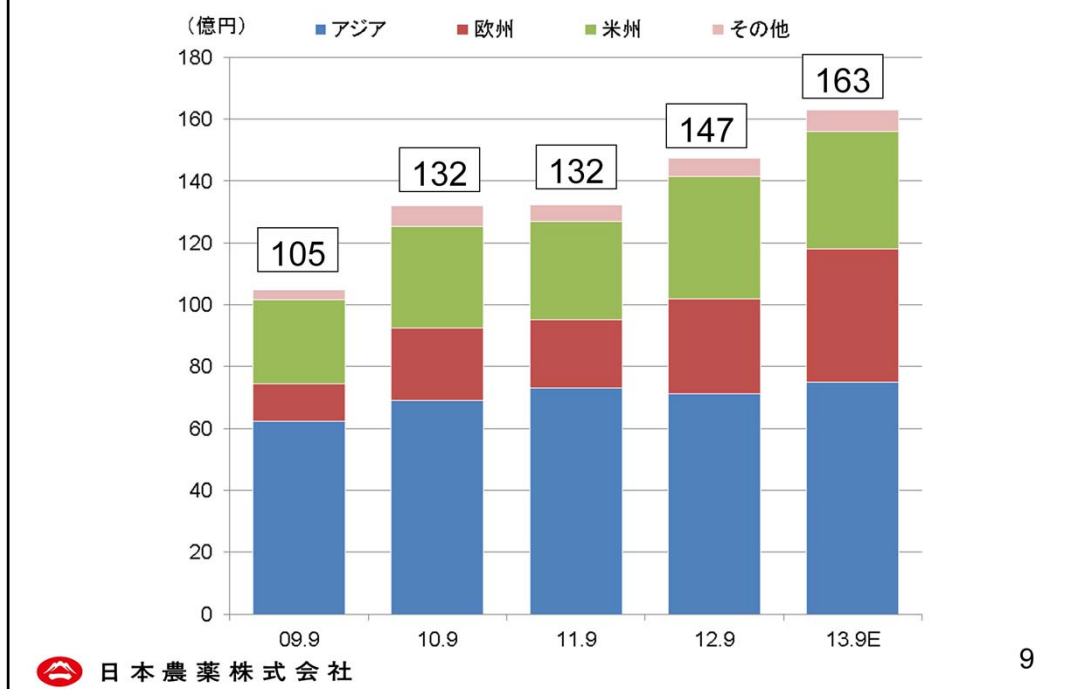
## 国内農薬販売



グラフは、国内農薬販売の売上高推移を表したものです。

通期では、上期の流通・販社への早期引き取りが下期に平準化されることが予想されるため、減収を見込んでおりますが、「フェニックス」や「コルト」などの主力自社開発品目の拡販により、自社品比率は上昇する計画であります。

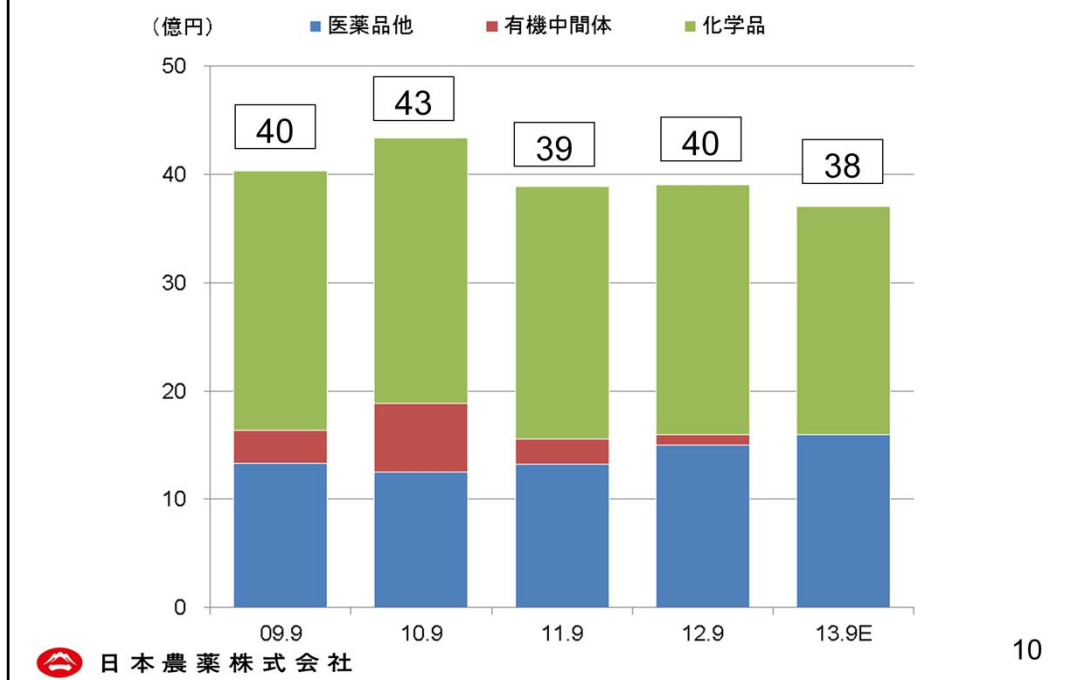
## 海外農薬販売



グラフは、海外農薬販売の売上高推移を表したものです。

通期では、欧州での伸長を見込みますが、米州では上期の早期引き取り分が平準化されることが予想されることから、売上高は伸び悩む見通しであります。

## 化学品・医薬品他



グラフは、化学品・医薬品の売上高推移を表したものです。

通期についても第2四半期同様、前期に行なった水処理薬剤販売事業の譲渡と有機中間体事業の当面の休止の影響から減収を見込んでおります。



---


## III. 研究開発の状況について

---

# 研究開発力の強化

## 創薬難度が高まる中、新規剤を着実に上市

品目名	特徴	2003	2004~2006	2007~2009	2010~2012	2013~
ブイゲット	水稲用殺菌剤 いもち病、細菌性病害	→ (03.4 上市)				
フェニックス	園芸、水稲、芝用殺虫剤 チョウ目害虫	→	→	→ (07.4 上市)		
アクセル	園芸用殺虫剤 チョウ目、甲虫目害虫	→	→	→	→ (10.4 上市)	
コルト	園芸用殺虫剤 カメムシ目、アザミウマ害虫	→	→	→	→ (10.12 上市)	
ダニコング	殺ダニ剤 広範なハダニ類に卓効	→	→	→	→	→ (15年上市予定)
NNF-0721	汎用性殺菌剤 広範な病害に卓効	→	→	→	→	→ (18年上市予定)

 日本農薬株式会社

12

上の表は、近年の当社の新規自社開発品目の開発実績と現在開発中の品目を表したものです。

2003年の「ブイゲット」を皮切りに2010年上市の「コルト」まで順調に新規剤4剤を上市致しました。

また、ピンクでお示した新たな新規自社開発品目には、新規殺ダニ剤「ダニコング」と新規殺菌剤「NNF-0721」があります。

「ダニコング」は、広範囲なハダニ類に高い効果を示す殺ダニ剤であります。既存の当社殺ダニ剤「ダニロン」との混合剤、商品名「ダブルフェース」と併せて2015年発売に向けて開発中であります。

「NNF-0721」は、広範囲な病害に高い効果を示す新たな汎用性殺菌剤であります。現在、2018年発売に向けて開発中であります。

## 新規上市品目のご案内

### ポートフォリオ拡充のため今期新たに5剤を上市

ライジンパワーフロアブル  
(水稲用除草剤)



ライジンパワー1キロ粒剤  
(水稲用除草剤)



フジワンパック  
(水稲用殺菌剤)



ムソウ豆つぶ250  
(水稲用除草剤)



ムソウジャンボ  
(水稲用除草剤)



当社は、当第2四半期までに新たに5剤を上市し、国内販売のポートフォリオ拡充を行ないました。

「ライジンパワー剤」は、自社原体の「インダノファン」を含有する水稲用除草剤であります。

また「フジワンパック」は、自社原体「フジワン」を含有するパック型製剤で、そのまま水田に投げ入れる省力型殺菌剤であります。

当社は今後とも研究開発型企业として、広く市場ニーズにお応えすべく創薬力強化と登録を含む開発の早期化を目指し、環境と安全に配慮した新製品の創出に力を注いでまいります。

## 業績予想・事業計画に関する注意事項

**本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。**